

モデル事業名	神仏と伝統芸能を中心とした歴史的文化的地域資源を継承・利用した山村地域活性化事業
活動団体名	遠山郷神様王国運営委員会
ホームページ	<a href="http://kami30.com/">http://kami30.com/</a>
所属/ 担当者名	担当者氏名（問合せ先） 藤田佳久（愛知大学文学部教授）
連絡先	電話番号 0532-47-4111、Eメールアドレス <a href="mailto:fujita@vega.aichi-u.ac.jp">fujita@vega.aichi-u.ac.jp</a>
活動地域	長野県飯田市南信濃和田地区・木沢地区

### ● 活動地域の概要

- ・ 旧南信濃村は和田地区を中心集落とし、木沢、八重河内、南和田の4集落で構成される。
- ・ 明治以降、製紙会社や戦後の国有林伐採による郷内への貨幣経済の浸透もみられたが、外材卓越の中で林業不況となり、就業構成はかつての林業が土木建設業や飯田市街地への遠距離通勤などへと変わり、近年就業内容がさらに多様化している。現在、事業所総数も第三次産業部門が77%を占めている。
- ・ しかし、そのことが若年層を中心に人口流出を生み、昭和30年には南信濃で6500人を数えた人口は、現在約2000人となり大幅に減少。世帯数も1400世帯が930世帯へと減少し、各地区ともに人口および世帯数は減少している。
- ・ 南信濃における65歳以上の高齢化率は40%を超え、下伊那地域全体の平均比率を7%以上上回っている。
- ・ 昭和30年代には20～40歳代が最多を示したが、今日では前述のように65歳以上が40%を占め、15歳以下の若年層はわずか8%に過ぎない。急速に過疎・高齢化と少子化が進行している。
- ・ 公共交通のうち鉄道は地域内になく、隣接する天龍村にあるJR飯田線平岡駅が最も近い。平成20年まで民営バスがJR平岡駅と地域内、飯田と地域内をつないでいたが、現在は飯田と和田間が残るのみであり、あとはタクシーバスと称する委託事業へと変わっている。デマンド方式であり、本数は減っている。



【太枿飯田市域、斜線部南信濃】



【再利用を目指したい旧秋葉道】



【庶民信仰の多くの神々が祀られている】

### ● 活動地域の課題

上述した人口減少、高齢化問題とともに、飯田市に吸収合併され地域の指導者を失い活力が減退しているこの地域の活性化への一助をめざした。そこで、遠山郷の歴史的文化的資源である多くの庶民信仰の神々を、今日の文化資源として再生し、「癒しの空間」にしようとして2008年度にこの事業により和田地区で発足した「神様王国」の一層の整備と活用を図る一方、より山間地域にあたる木沢地区での神仏調査と霜月祭の復元をすすめ、地区の活性化をめざす。また旧秋葉道をつなげて街道沿線の地域との交流を図りつつ、その活用方法を検討する。

以上が活動地域の大きな課題と本事業の概要だが、以下のような個別課題もみられる。

1. 「神様王国」における個々の神仏の石像や碑、案内板、休憩所、トイレ、コース、旧秋葉道の一層の整備
2. 「神様王国」における有料ガイドの先進地での実践研修の必要性
3. 著しい過疎・高齢化により簡略化されたかたちで継続している霜月祭の復元調査と木沢地区の神仏調査
4. JR飯田線平岡駅での鉄道とバスの接続（本数の増加と、乗り継ぎ時間を短縮させる必要がある）
5. 来訪者案内所「アンバマイ館」（現地の方言で「遊びましょう」の意）での職員対応の工夫（ネーミングの精神に合うような職員の育成の必要性がある）
6. 来訪者増加の際、神仏保全（具体的にはコンクリートで神仏を固定するなどの盗難防止）の工夫
7. 地域経済が活性化するよう、土産品などの商品開発をすすめること（「一店一品」をめざしたい）

## ● 活動の内容

### ・平成20年度

神様王国運営委員会のメンバーを中心にガイドシステムを構築し、来訪者の案内を行った。これまで、地元商工会の援助により各神仏（33か所）に簡単な案内板を設置したが、整備やPR活動が十分ではなかった。そこで「新たな公」の援助を得ることにより、神仏の名称と位置を示したリーフレット、神仏の解説と遠山郷の歴史的文化的背景を記したガイドブックを発行し、来訪者の神仏への理解がすすむよう工夫した。また、地区内の主要箇所「神様王国」の幟旗を立てて来訪者と住民にその存在をアピールし、地域外の来訪者にその存在を知ってもらうためにホームページを立ち上げた。そして、モニターツアーを実施し、参加者から率直な意見を頂戴した。

### ・平成21年度

前年度の活動を受け、それをさらに発展させるために和田地区において整備を継続した。具体的には、ホームページとリーフレットの改善、案内板の補修、休憩所と旧秋葉道の整備を行い、ガイドのスキル向上のため実践研修を高山市や旧古川町で行う。日常的には休憩所を整備し来訪者を受け入れるほか、「アンバマイ館」にガイドを配置して情報提供と「神様王国」の案内を行うことにする。活動の評価とまとめとして、モニターツアーとワークショップを行う。

また、木沢地区にも神様王国を拡大するため、その基礎調査と上述した簡略化された霜月祭の復元調査も行う。その結果、和田地区同様にリーフレットとガイドブックを作成する。また、旧秋葉道沿線地区のネットワーク化も図る。

加えて木沢地区の北接する旧上村上町地区においても同様の活動を行いたい。

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

上述した印刷物の刊行と、ホームページ公開が実現し、多くの観光客が「神様王国」に訪れるようになった。なかでもリーフレットはJR平岡駅と豊橋駅観光案内所に設置しているが、すぐに補充をしなければならないほど好評である。また、モニターツアーを実施したところ25名の参加者があり、アンケートを実施したところそのほとんどが良好な評価をした。しかし、ガイドはもう少し相手に応じた説明をすべきだという意見や、コース中の旧秋葉道の足元が悪くとくに女性高齢者にとり難点となったこと、またコースのマップや標示に不十分などところがあること、神仏の祀られている場所のなかに整備されていないところがあったこと、買物時間などの工夫と欲しい商品の売り切れ不足、などについて複数の指摘があった。それらが問題点であり、解決すべき課題にもなった。



【モニターツアーの様子】

### ・平成21年度

和田地区においては、表紙を神様王国のロゴとイメージカラーにし来訪者が利用しやすいようアクセス方法と宿泊施設情報をわかりやすく示した改訂版リーフレットを発行した。また、神仏案内板の劣化を防ぐために表面にラッカーを塗布し、町中に休憩所を設け歩きやすいよう旧秋葉道の整備も行った。あわせて盗難が懸念されていた神仏の固定と保護のための帳屋を建設した。さらに、週末を中心に「アンバマイ館」にガイドを待機させ、来訪者への案内をスムーズにし、そこに勤務するスタッフたちも彼らの対応をみて接客技術が向上した。そのガイドたちも昨年のモニターツアーで指摘された点を改善するために、ガイド先進地である飛騨高山・古川で研修を行い、多くの示唆を得た。



【神仏保全の様子。後日、これらの神仏を覆う帳屋も完成した。】

加えて木沢地区を中心に神仏調査を実施し、和田地区と同様に周遊可能な16の神仏を設定した。霜月祭復元のために木沢地区のうち山間部の須沢集落を訪れ、簡略化された祭りの実見と聞き取り調査を行ったが、著しく過疎・高齢化がすすみ周辺集落でもそれがみられることから、その各演目の復元は難しいと考え、祭りの記録と聞き取り調査により文字・画像としての復元とした。旧秋葉道のネットワーク化としては、本年度は他地区で開催されたイベントに参加し、沿線住民たちと交流を図った。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

遠山郷には「神様王国」以外にも日帰り温泉施設「かぐらの湯」や旧木沢小学校木造校舎などの施設があるが、これらとのネット化や協働が必要である。さらに、地域に眠る活用されていない資源を発掘し、それらを積極的に観光商品化し、見て聞く「神様王国」に体験ができるようなプランも提案し、観光客が何度も遠山郷を訪れてくれるよう工夫したい。そのためにも地域住民の「神様王国」認知度をさらに上げ、地域全体で「神様王国」を盛り上げていきたい。

### ・展望

今後は遠山郷全体に「神様王国」を広げ、地域全体で「癒しの空間」として山村活性化に自律的に活用できるようにすることを目標としたい。本事業により、地域に誇りをもった住民によるコミュニティづくりが可能になり、また来訪者の増加により地元に経済的効果も期待することが出来、そこからさらに新たな地域づくりの工夫が生まれることが十分に期待できる。